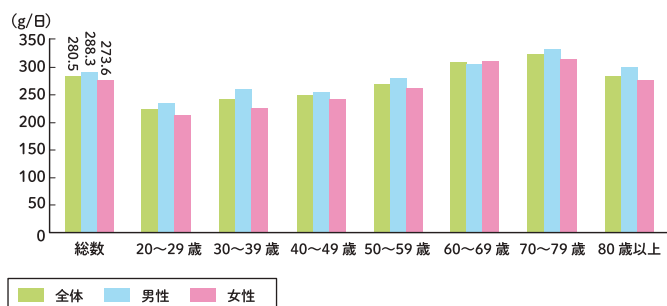


野菜、果物を食べよう！

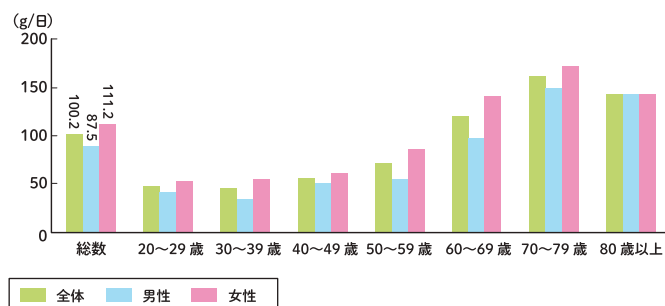
- 第4次食育推進基本計画では、2025年度までに、1日当たりの野菜摂取量の平均値を350g以上、果物摂取量100g未満の者の割合を30%以下とすることを新たに目標として設定しています。
- 農林水産省では、企業・団体等の「野菜サポーター」と連携して「野菜を食べようプロジェクト」を実施するとともに、生産者団体等と協力して「毎日くだもの200グラム運動」を実施するなど、野菜や果実の摂取量増加に向けた取組を推進しています。

野菜類摂取量の平均値（性・年齢階級別、20歳以上）



資料：厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査」
注：野菜類とは、緑黄色野菜、その他の野菜、野菜ジュース、漬け物

果実類摂取量の平均値（性・年齢階級別、20歳以上）



資料：厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査」
注：果実類とは、生果、ジャム、果汁・果汁飲料



「1日350g」と目安を表した
「野菜を食べようプロジェクト」ロゴマーク



「毎日くだもの200グラム運動」
ロゴマーク

MORE INFO

「野菜を食べようプロジェクト」
(農林水産省)

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/yasai/2ibent.html>



令和5年度食育白書 88 ページ

災害時の備えは日頃の備蓄から

- 農林水産省では、災害時に備え、日頃からの家庭での食料の備蓄を実践しやすくなる方法（ローリングストック）等をまとめた「災害時に備えた食品ストックガイド」を公表しています。
- 災害時に特別な配慮が必要となる人がいる家庭や、単身者を対象としたガイドブックも公表し、食品の備蓄の必要性やその始め方等を分かりやすく解説しています。

MORE INFO

「災害時に備えた食品ストックガイド」(農林水産省)

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/foodstock/attach/pdf/guidebook-13.pdf>



令和5年度食育白書 98 ページ



「災害時に備えた食品ストックガイド」





環境負荷を低減する生産者の努力の「見える化」

- 農林水産省では、「みどりの食料システム戦略」に基づき、生産者の環境負荷低減の努力をわかりやすく表示し、消費者が農産物を選択できるようにする「見える化」の取組を推進しています。
- 2022 年度に米、トマト、キュウリの3品目を対象に、温室効果ガス削減への貢献を星の数で表示する等級ラベルを付して実証販売を開始しました。
- 2023 年度は対象品目を、米、野菜類、果樹類、いも類等の23品目に拡大するとともに、小売店舗や外食、教育機関等の多様な場で実証販売を実施しました。
(実績：全国累計 773 か所 2024 年 2 月 29 日時点)
- 2024 年 3 月からは、米を対象に化学肥料や化学農薬の低減等、生物多様性保全への貢献を示す表示を追加し、新たなラベルデザインでガイドラインに則った本格運用を開始しています。



新たなラベルデザイン

「見える化」実証販売の様子

MORE INFO

令和5年度食育白書 129 ページ



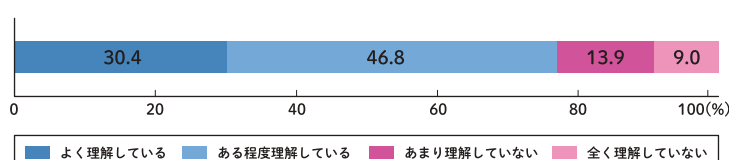
食品ロスの削減に関する取組

- 消費者庁では、消費者に期限表示の意味を正しく理解してもらうため、賞味期限が「おいしく食べることができる期限」であることをわかりやすく表現した「おいしいめやす」という愛称を活用し、事業者の協力のもと、普及啓発を行っています。
- 2023 年 9 月、食品ロスをテーマに消費生活意識調査を実施しました。
- 調査で賞味期限・消費期限について正しく理解できているかについて聞いたところ、「よく理解している」、「ある程度理解している」と回答した人が約8割を占め、一定程度の方に浸透している一方で、約2割の人がまだ理解していないことがわかりました。



普及啓発ポスター
「賞味期限はおいしいめやす」

賞味期限・消費期限の理解度



資料：消費者庁「令和5年度第2回消費生活意識調査」

全体 (5,000 人)

MORE INFO

令和5年度食育白書 137 ページ

『みんなの食育』のご紹介

- 農林水産省では、食育関係者間の情報共有や異業種間のマッチングによる新たな食育活動の創出等、食育の推進に向けた研修を実践できる人材の育成等に取り組むため、2020 年度に「全国食育推進ネットワーク（みんなの食育）」を立ち上げました。
- 2023 年度はプロのスポーツチーム、地方公共団体、JA（農業協同組合）が連携した親子料理教室等を開催しました。
- この親子料理教室の参加者からは「大好きな選手と調理体験ができて楽しかった。」「子供と一緒に家で料理を作る機会がなく、良いきっかけになった。」等の声が聞かれました。



選手と料理体験の様子

MORE INFO

全国食育推進ネットワーク
『みんなの食育』（農林水産省）

<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/network/index.html>



令和5年度食育白書 112 ページ

6月は楽しく学べる企画が盛りだくさん！

毎年6月の「食育月間」には、食育推進活動への積極的な参加を促し、その一層の充実と定着を図るため、各地で様々な取組が行われています。



「食育月間」の取組 「第18回食育推進全国大会 in とやま」、 「食育月間セミナー」を通じた食育の普及啓発

- 2023 年6月24日、25日に「食で心も体も幸せに とやまから広げるウェルビーイング～未来へつなげよう 幸せの基盤～」をテーマに「第18回食育推進全国大会 in とやま」を開催しました。
- 食育活動表彰の表彰式、富山県内スポーツチームによるワークショップや食育トークショーの開催、食育に関する135のブースの出展など様々な催しにより、楽しみながら食育について考える機会を提供しました。
- 2023 年6月30日に開催した「食育月間セミナー」では、プロのスポーツチームと行政や企業、団体等が連携した食育の実践等の基調講演、パネルディスカッションを実施しました。

MORE INFO 令和5年度食育白書 111 ページ



「第7回食育活動表彰」の表彰式の様子



スポーツによるワークショップの様子



パネルディスカッションの様子

食育の優れた取組が表彰されています

食育の取組が全国で展開していくことを目的として「食育活動表彰」をはじめ、各種の表彰を実施しています。

調理体験を通じて、次世代を担う高校生たちにふるさとの味をつなぐ

(第7回食育活動表彰 農林水産大臣賞受賞)

くまもと

熊本市食生活改善推進員協議会（熊本県）

- 2005年から高校生を対象に「思春期の食育推進事業」として、熊本の食文化の理解と自身の健康を守るスキルを身に付けることを目的として開始し、郷土の食材や郷土料理の伝承活動を中心とした食育活動を継続的に展開。現在では家庭科授業の年間行事として定着しています。
- 調理体験を通して、地元の食材への理解と、地産地消の重要性を伝えています。
- 生徒からは「教えてもらった郷土料理を将来、自分の子供に伝えたい。」といった声も聞かれています。



調理体験の様子



実習前のミーティングを行う様子

MORE INFO

令和5年度食育白書 50 ページ

食を通してぬくもりの連鎖を次世代につなげる

(第7回食育活動表彰 農林水産大臣賞受賞)

いばらき

シェアリンク 茨木（大阪府）

- 2010年9月に、SNSを通じて子育ての悩みを持つ市民の集まりから始まり、「一緒にご飯を食べよう。」「みんなで畑をしよう。」と発展しました。現在は、食育講座や畑作り、防災活動等、食にまつわる様々な活動を市や関係機関・団体、地域住民等を巻き込み展開しています。
- 2018年の大阪北部地震後に更地になった土地に「みんなの畑」を作り、農作物の栽培等を行い、収穫した野菜で「いばらき自炊塾」を地元の高校と連携して実施、野菜を加工して販売を行う「こどもマルシェ」も実施するなど、「食」を中心としたまちづくりを意識した活動を展開しています。
- 「生きることは食べること」として、食を通して人がつながり、喜びや未来をシェア（共有）し、リンク（つなげる）させることにより、ぬくもりの連鎖を次世代につなげていきます。



「みんなの畑」の写真



「こどもマルシェ」の準備

MORE INFO

第7回食育活動表彰

https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/hyousyo/7th/result.html#jirei_7



令和5年度食育白書 120 ページ